

エコスタイルが新商品続々 営農用太陽光、自家消費設備、新電力支援

全国各地で低圧太陽光発電所を建設するエコスタイル（木下公貴社長）の新商品が話題を呼んでいる。斬新な営農用太陽光発電設備と、高利回りの自家消費太陽光発電設備に、電力小売りの支援サービスである。太陽光発電オーナーをはじめ、販売・施工会社も必見だ。

農地に太陽光発電設備を設置して営農と売電を両立する営農用太陽光発電（ソーラーシェアリング）。農地の一時転用が認められ、徐々に増えてきたが、それでもまだ普及していないとはいえない。業者に転用を認める条件として定められた「営農の継続」、こ



ジャイロ型太陽追尾架台に設置された太陽光パネル

れを担保するための要件が複数あり、それらが参入障壁となっている側面もあるが、やはりコストの壁が厚いのだ。というのも、営農用太陽光発電は、太陽光パネルの下に農作業を行うスペースを確保し、農作物への採光も考慮しなければならず、地上から高い位置へパネルを固定する特殊な架台を使う。kW当りの設置費が通常の低圧太陽光発電所より割高になるのだが、売電単価は一般設備と変わらないため、相対的に利回りが低くなる。

この問題を打開しようと、エコスタイルは2017年10月、東京工業大学発の技術ベンチャー、ソーラーフレームと資本提携を締結。ソーラーフレームのジャイロ型太陽追尾架台を用いた営農用太陽光発電設備のコストダウンを実現させて商品化する準備を進

めている。

このジャイロ型太陽追尾架台は、太陽の方向に常にパネルが向くよう、架台の向きをソフトウェア制御によって稼働する。このため、通常の固定架台と比べて発電量が1.6倍に増えるというのだ。

エコスタイルの木下公貴社長は、「実証試験を実施し、発電量が概ね1.6倍に増えることが確認できています。この設備であれば、今後売電単価が下がっても、発電量を増加させることで太陽光発電の利回りを高めることが可能です。また、従来の営農用太陽光発電に比べて設備の設置条件や営農への影響を軽減でき、営農用太陽光発電には有効な架台です」と強調する。

エコスタイルとソーラーフレームによって商品化される、この新しい架台を活用した営農用太陽光発電設備。衰退の危機に直面した日本農業を救うことができるかもしれない。その一方で、自家消費用の

短い投資回収期間と高い投資利回りが魅力の『太陽でんき®』

	工場	物流倉庫	介護施設	旅館	スーパーマーケット
契約電力	150kW	185kW	220kW	235kW	275kW
年間の電力使用量	341,640kWh	453,768kWh	770,880kWh	770,880kWh	1,059,960kWh
太陽光発電設備の容量	50kW	50kW	65kW	90kW	120kW
従来の年間電気代	728万円	988万円	1,502万円	1,668万円	2,066万円
設備導入後の年間電気代	597万円	785万円	1,276万円	1,396万円	1,670万円
年間の電気代削減額	131万円	203万円	226万円	272万円	396万円
初期投資額	1,150万円	1,150万円	1,495万円	2,070万円	2,760万円
実質初期投資額*	747万5,000円	747万5,000円	971万7,000円	1,345万5,000円	1,794万円
投資回収期間	5.7年	3.7年	4.3年	5.0年	4.6年
投資利回り	17.5%	27.1%	23.2%	20.2%	22.0%

* 法人税率を35%とし、中小企業経営強化税制の即時償却を活用した場合



太陽光発電設備と電力小売りを組み合わせたエコスタイルの独自の複合商品、『太陽でんき®』が注目を集めている。実際、施設のオーナーが太陽でんき®を導入すると、電気代を大幅に削減でき、初期の設備投資額をわずか4〜5年で回収できる。設備は20年以上稼働でき、償却後の電気代の削減額はすべてオーナーの利益だ。ゆえに高利回りの投資商品になり得る。なぜ、太陽でんき®が魅力ある投資商品になり得たのか。太陽光発電設備の建設における同社のコスト競争力が背景にある。

たとえば、折板屋根用の設備ならば、施工費を含む同社の販売価格はkW当り税抜17・2万円だ。設備の年間稼働時間を1000時間、耐用年数を20年としても、発電した電力の単価は8.6円/kWh。これに対し、電力会社から購入する産業用電力の単価は14〜17円/kWhだ。同社の設備で自家消費すれば、kWhあたり5.4〜8.4円の差益が生まれる。そして電力小売りの競争力だ。同社は、気象予報士を抱え、独自の電力需給管理システムを構築。太陽でんき®ご契約者様の電力需要を、自家消費用の太陽光発電の電力を考慮し、無駄のない電力の調

達・供給が可能だ。夜間など太陽光発電の電力では賄えない電力需要を割安な『エコスタイルでんき』で補うことができる。

これらに国の税制優遇措置、『中小企業経営強化税制』を活用すると、中小企業経営強化法に則して、今年度から2年間、中小企業は、自家消費用の太陽光発電設備を導入する際、即時償却または税額控除10%（資本金3000万円超1億円以下の法人は7%）が受けられる。

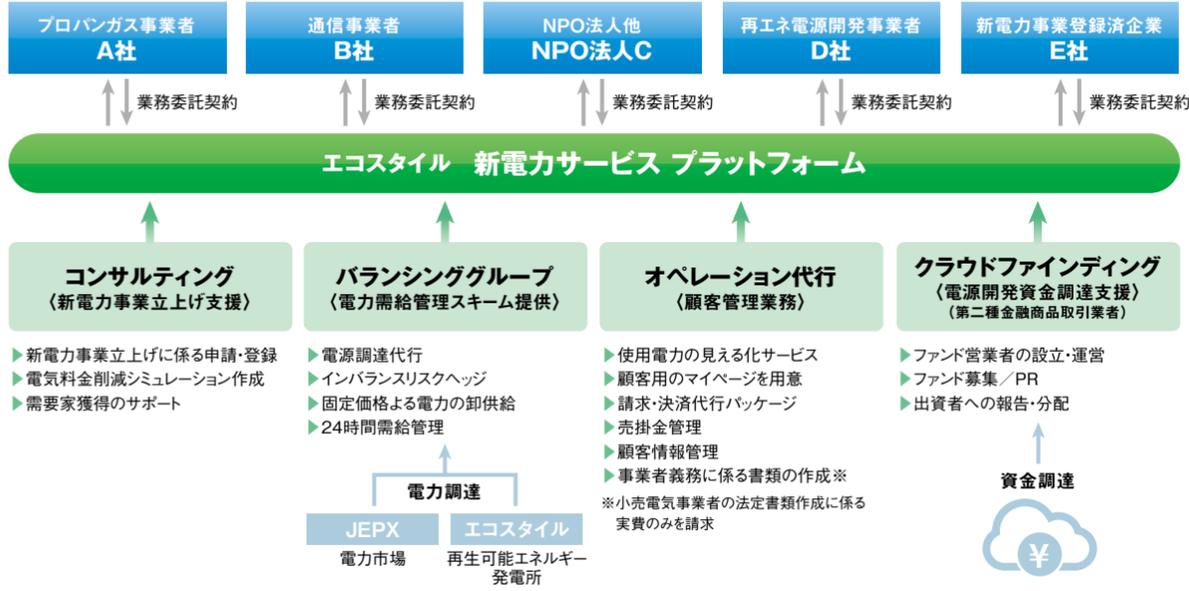
むしろ、施設によって電力の使用状況が違うため、太陽でんき®の導入による初期投資額と電気代の削減幅は異なるが、木下社長は、「投資利回りは、税制を活用できれば小さいところでも14%以上、施設によっては27%を超えます。FIT売電より利回りは高く、しかも、電気代の削減は純粋な利益増ですので、利益率10%の会社であれば、削減額の10倍の売上増と同じ効果ということです。さらにCO₂削減という環境投資の側面もあります」とアピールする。

販売店必読！ 手厚い新電力支援

さらに、同社は新電力事業の参入支援を始めている。同

エコスタイルが提供する新電力事業サポートサービス

初期費用0円・インバランスリスクゼロ・市場リスクゼロ



社のbalancingグループへ参加することで事業の立ち上げから電力の需給管理や顧客

管理に至るバックオフィス業務まで一貫して同社が請け負うもので、これほど手厚い新

株式会社エコスタイル

[東京本社]
東京都千代田区丸の内1-4-1
丸の内永楽ビルディング20F
TEL ☎0120-010-715
(経営企画室アライアンス担当)



電力支援は他にない。そもそも、新電力事業にはリスクが伴う。電力の需給管理では、30分毎の需要と供給を一致させる同時同量の義務を履行できなければ、罰則金を支払わなければならない。電力を市場から仕入れるにも、市場価格が季節や時間帯で変動し、逆ザヤが発生しかねない。これらのリスクを同社は全て負担し、一切の業務を初期費用ゼロで提供するのだから、未経験の企業も安心して取り組める。木下社長は、「電力小売りは、競合他社との差別化や既存顧客との関係構築に有効です。当社の支援を活用すれば、容易に参入していただけますので、ぜひご検討ください」と述べる。再生可能エネルギーで日本を持続可能な社会に変える。それがエコスタイルの理念なのだ。目が離せなくなってきた。